

一五四〇(天文五年)頃?二月七日大内義隆書状

(島根大学附属図書館蔵石見小笠原文書)

都野氏存在

一五五二(天文二十一年)三隅分不知行地注文『益田家文書』一―二八四号) 8
都野氏 平安時代末期から石見国衛の在庁官人として都野郷を支配

南北朝期には南朝方として都野城を拠点に活動

一三四三(康永二年)三月日内田致景軍忠状写

(内田家文書『南北朝道文』二―二四四号) 9

一族の江氏が江津を支配か

『太平記』卷二十一・先帝崩御事 10

二二二、水運拠点としての江津

中世江津の風景 『石見八重葎』一八〇四―一八一八(文化年間)

江津の領主と朝鮮交通 『海東諸国記』(一四七一年成立) 11

一四六八年 『北江津太守平朝臣吉久』

一四七〇年 『桜井津土屋修理大夫平朝臣賢宗』

中国明朝の日本図と江津・都野津 『日本図纂』(一五六一年成立)

石見州に哥(江)・堀俣市(都野津) 他に長浜・浜田・温泉津・波根・刺賀

水軍としての都野氏

一五七〇(元龜元年)正月十九日毛利元就書状

(阿川毛利家文書『山口県史料編中世』) 12

一五八一(天正九年)七月十七日吉川元春書状写

(大島家文書『岩国藩中諸家古文書纂』四) 13

江の川水運

「河上(かわのぼり)」という地名(現在の江津市川平町に南川上)

一二二三(貞応二年)三月日石見国大田文写

(益田家文書『鎌倉遺文』五―三〇八号)

「河下(かわくだり)」という地名(現在の川本町因原に川下橋)

一五二二(永正九年)六月一日小笠原長隆書下(庵原文書『新修島根県史』)

河上・河下は鎌倉初期にはセツトで成立しており、この範囲が江の川水運の一つの単位

江の川沿岸の領主と水運

「市山衆」による「船橋」設置

一五六二(永祿五年)正月九日毛利元就書状写

(祖式家文書『岩国藩中諸家古文書纂』六) 14

二宮俊実覚書(吉川家文書別集)二宮家旧蔵文書五六二号) 15

河上―河上氏、桜江(桜井)―土屋(桜井)氏、川本(河下を含む)―小笠原氏

主な参考文献

『江津市誌』(江津市誌編纂委員会、一九八二)

井上寛司『中世の江津と都野氏』(『山陰地域史研究』三、一九八七)

井上寛司『中世の港町・浜田』(浜田氏教育委員会、二〇〇一)

佐伯徳哉『尼子氏興亡・毛利氏勃興をめぐる領域的支配と地域』

長谷川博史『十六世紀における西日本海域の構造転換』

(島根史学会会報『四七、二〇〇九』)

(矢田俊文・工藤清泰編『日本海域歴史大系第三卷中世編』清文堂、二〇〇五)